

さいたまここに人あり

チームになって挑んだ

「疎開保育園」

映画監督 平松恵美子さん

「特集」

おつかれさま

新たに教職員になった

みなさんへ

教育実践

人権教育に携わって

今井 洋

地域から

埼玉AALA「平和の旅」

河内 研一

論考

性の多様性を前提とした

教育のありかた

堀川 修平

さいたまの

2019年7月10日発行一夏号 ●さいたま教育文化研究所

教育と 文化

NO. 89 **夏**
SUMMER





私の1枚

田島の獅子舞

さいたま市指定無形民俗文化財

さいたま市桜区田島の氷川社の拝殿前で3月、7月、10月の祭礼に舞われる。

12年ぶりに1981年に復活。今年は3月17日に催された。獅子は3頭だてで、大獅子、女獅子、中獅子から構成され、未成年の女子2人が花笠を頭に乘せて立ち、楽器は3獅子がつける太鼓と5人の笛の演奏である。

舞は狭い境内をとこ狭しと舞い踊り、休む暇もなく30分弱休憩なしは疲労がうかがわれた。観衆は息をのんで見守った。

(退職会員互助会制度写真クラブ
鈴木孝)

* 目 次 *

ひろば 映画「あの日のオルガン」の上映運動に
取り組んで 島村道雄 3

さいたまここに人あり
チームになって挑んだ「疎開保育園」
平松恵美子 5

特集 お疲れさま 新たに教職員になったみなさんへ
元気！勇気！本気！根気？でも“呑気”でいこうよ
宮田祐介 8

教員を目指していた気持ちを自分の大黒柱に
金井宏伸 9

1年目を終わると 田村 元 10

相談できる人が近くにいますか 澤井宏至 11

「養護教諭になってよかった」と感じる瞬間を
黒須勝枝 12

みなさんの門出を祝って 橋本紀子 13

新しい先生達へ 久保祐子 14

さいたま教育文化研究所は
こんな活動をしています 15

生き生きと働き続けたい 16

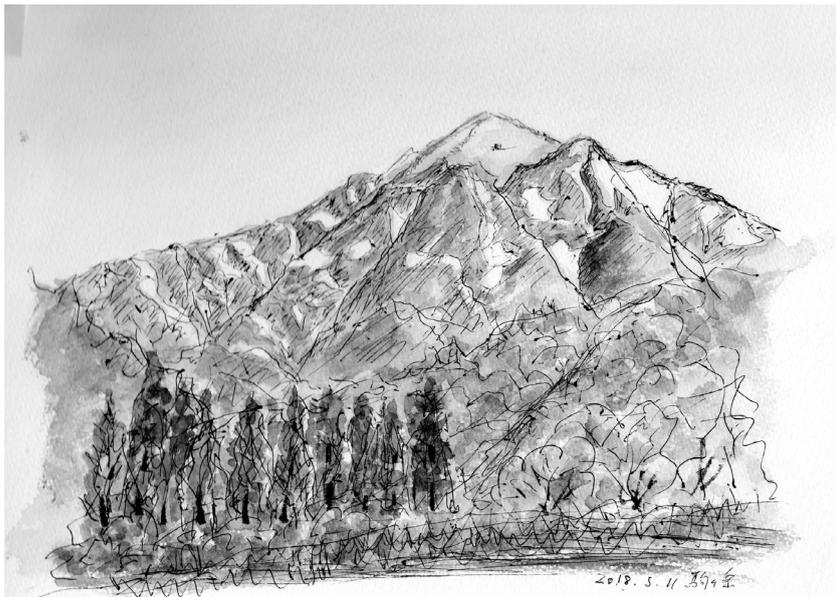
教育実践
人権教育に携わって 今井 洋 18

地域から
埼玉 AALA「平和の旅」 河内研一 21

論考
性の多様性を前提とした教育のありかた
堀川修平 24

健康で働き、人間らしい生き方を実現するために
杉本正男 28

教育相談室の窓
佐藤とも子 30
ブックレビュー
高岡佐和 31



絵・大森宗次

映画「あの日のオルガン」の 上映運動に取り組んで

1944年11月、空襲を避けるため東京から3〜6歳の園児53人と若き保母11人が蓮田の妙楽寺に疎開し、約1年にわたり繰り広げられた疎開保育園物語の実話が映画化される話を私たちが知ったのは、昨年2月でした。

この間、この映画を通して、子どもたちの命を育み、平和な未来が築ける力となるよう、そして蓮田の歴史と文化を記録して語り伝えるため「映画『あの日のオルガン』を支える蓮田市民の会」を立ち上げ、映画の製作と上映運動に取り組んできました。

この運動に共感していただける市民等が次々と入会し、現在、330名を超える団体となり、映画制作委員会にも出資し、映画のエンドロールの中に蓮田市の名前を出すことができました。

こうした中、昨年6月には映画も完

成し、早速、試写会で観させていただきました。普段、あまり映画を観る機会が少ない私ですが、この映画には感動させられました。戦時下、水道も風呂もない吹きさらし状態の無人の荒れ寺で、約1年間保母さんたちが24時間保育をしながら子どもたちの命を守り抜いたこと、そしてそれを支えた蓮田市民がいたことがひしひしと伝わる映画で、すすり泣きが聞こえる劇場の中で、私も何度か目頭を押さえる正に感動映画でした。

私たちは、この映画を更に多くの市民に観ていただくため、蓮田市長さん等にも試写会に参加していただき、その結果、蓮田市が全面協力してくれることになり、市及び市民団体（52団体）で構成する蓮田市上映実行委員会も立ち上がり、今年夏4日間、蓮田市総合文化会館（ハストピア）で上映会（15

回上映）を開催することとなりました。併せて、市内の小中学生全員（約4500人）がこの映画を鑑賞し、蓮田の誇りある実話を学習することとなりました。

私たちはこれまで、映画の製作と上映運動を続けるとともに、久保つぎこさん原作の「あの日のオルガン・疎開保育園物語」（朝日新聞出版・2018年）と、童話絵本「けんちゃんとトシせんせい」（金の星社）の二冊を市内すべての小中学校・保育園・図書館に寄贈してきました。今後は、先ず、今年夏の蓮田市上映会を成功させるとともに、更に多くの方々がこの映画を観ていただく運動を進めます。

併せて、70数年前、蓮田で起こったこの史実をさらに掘り下げる学習会等続けながら、誇りある蓮田の実話を語り伝えるとともに、子どもたちを地域みんなで守り抜いた風土を受け継ぎ、平和な未来が築ける運動を進めたいと考えています。

映画「あの日のオルガン」を支える

蓮田市民の会

事務局長 島村道雄

さいたまここに人あり

チームになつて挑んだ

「疎開保育園」



映画監督

平松 恵美子さん

映画好きだった 子ども時代

—この仕事を始めたきっかけは？
子どもの頃から映画は好きでしたね。親が好きでしたし、兄も好きでした。私は兄の影響が強かったのです。映画体験として刺激的だったのは、中学生の兄と小学校低学年の私が2人きりで観に行った「007—黄金銃を持つ男」と「ボルサリーノ2」の2本立てでした。悪いことをしていると、いう感じがして、刺激的でしたね（笑）。
大学時代に、岡山で自主上映サークルをやっていて、その当時でいうとジム・ジャームッシュとか、ベンダースとか、そういう作品を呼んでホール上映をおこなうことで、自

あの日のオルガン

東京も安全ではなくなっていた1944年。国の決定を待たずして、日本で初めて保育園を疎開させることに挑んだ保母たちがいた。誰もが自分のことで精一杯だった時代、彼女たちを突き動かしたものは一体なんだったのか？太平洋戦争末期、戸越保育園（品川区）と愛育隣保館（墨田区）の20代を中心とした若手保母たちが、子どものいのちを守るため、53人の園児を連れ、まだ誰もやったことのなかった集団疎開を敢行したいわゆる「疎開保育園」。これは、幾多の困難を乗り越え、託されたいのちを守りぬこうとするヒロインたちの奮闘を描く。平野村の妙楽寺（現蓮田市）に保育園疎開した、実話をもとにした物語。



分たちも映画を楽しめたんです。
ただ、その時代は映画で食べていけるとは思っていなかったから、仕事は仕事として別の道にすすみました。学校を卒業した時に、家族と「2年間だけ」という約束で就職して東京に出て、真面目なOLをやったんです。2年が終わる頃に、「あれ、私東京でなにやってたのかな」と。せっかく東京に出て来たのに、映画

も芝居もそんなに見なかったし、美術館も行けなかった。そんな時に、新宿ピカデリー（映画館）に鎌倉映画塾（松竹）の第一期生募集のチラシが貼ってあったんです。鎌倉映画塾のある大船撮影所は、当時「男はつらいよ」とか「釣りバカ日誌」を作っていた時代だったから、そういう生の映画を作る現場が目前にあるところで映画作りが学べるかなと思って、最後のチャレンジと思って試験を受けたら、たまたま合格して。そこからです、映画の世界にはいったのは。

描きたかった 若者の可能性

—この作品に出会ったときの感想はどうでしたか。

原作を読んで感じたことは、「よく（疎

開保育を）やったな」という一言に尽きますね。「お父ちゃん」「お母ちゃん」と甘えたい盛りの小さい子どもたちを親からひっぺがして、24時間保育をするわけですから。

企画の鳥居明夫さんから原作を渡されたとき、鳥居さんの思いとしては反戦、それから子どもたちの命の大切さだったと思うんです。虐待とか、いじめとかで子どもたちが命を落としてしまう現代だからこそ、子どもの命を守るために奮闘した人たちの話をやりたいと言っていました。それはものすごく賛同したんですけど、それだけだと硬くて、敷居の高い映画になってしまう。どういうところに注目したらいいのかと思っていました。「戦争は怖いものだ」とダイレクトに主張すると、「そんな映画観たくないよ」と思っちゃいますしね。

原作は1980年頃に疎開保育について取材した内容で、当時、体験者の保母

さんたちは50代なかばくらいです。ものすごく働き盛りの時期ですよ。私たちが中心になってやってきたのよ」と当時を振り返って対談したりしているのもものすごく明るいんです。「あのとき、私たち何でもできたよね」「それなのにわたしは足引っ張って」「そんなことないわよ！」なんてやりとりがあって、すごく生き生きとしていたんです。この生き生きとした感覚って大事だなと思いました。当時、保母さんたちが「疎開しよう」と言ったときも、挑戦する前向きなパワーみたいなものがあつたんじゃないか。そういつた若い女性たちが挑戦した話ととらえたら、堅苦しくて重苦しいだけじゃない描き方ができるなと思いました。同時に、若者たちの可能性についてのメッセージを発することもできるんじゃないかな、と。

—この作品を観る若い世代、そして子どもたちに感じてほしいことはありますか。

プロフィール 1967年生まれ、岡山県出身。「鎌倉映画塾」の第一期生として入塾。在塾中の1993年、山田洋次監督の『学校』、『男はつらいよ 寅次郎の縁談』に助監督として参加したことから卒業後も山田組に加わることとなる。助監督として『たそがれ清兵衛』(02)、『隠し剣 鬼の爪』(04) など山田組のほぼ全作品に参加。また共同脚本作品として、『さよなら、クロ』(03)、『松岡錠司監督』、『釣りバカ日誌16 浜崎は今日もダメだった』(05)、『朝原雄三監督』の他、山田洋次監督の『武士の一分』(06)以降のほぼ全作品に参加。『武士の一分』(06)、『母へえ』(08)、『おとうと』(10)、『東京家族』(13)、『小さいおうち』(14)、『母と暮せば』(15)、『家族はつらいよ』シリーズ(16・17)では日本アカデミー賞優秀脚本賞を受賞。『ひまわりと子犬の7日間』(13)で松竹では2人目の女性監督としてデビュー。その他監督作品に『双葉荘の友人』(16)、『WOWOW』がある。

寄せられた感想を見ると、10代、20代は、みっちゃん（大原櫻子）にすごく感情移入しているんです。「私もダメなところがあるけど、がんばろうと思った」というようにね。30代、40代は楓（戸田恵梨香）にすごく肩入れするんです。中間管理職として、楓の「泣いている場合じゃない」という姿勢に、「わかる」とかね。

戸田恵梨香さんと大原櫻子さんのダブルヒロインで、どちらで観るか分かれる感じでした。お母さん世代は、「親の気持ちで見ました」といって、「子どもが疎開して別れると思ったら：始まって20分くらいで泣き出しました」と。蓋を開けてみたら、いろんな見方ができる映画になったな、とうれしかった。

九州の福岡で試写をやったときに、小学校2年生くらいの子とお父さんが来てくれていたんです。映画が終わった瞬間に、その子が「あー、良かったね。戦争が終わったね」とって大きい声で言っていました。それで、すごく救われた感じがありました。ああ、子どもにも届いてた、と。「疎開保育」が成功したのは、色んな理由があると思いますが、ひとつはものすごく信頼関係があったということですよ。親御さんたちは30代、40代で何人

も子どもを育てているような人たちなのに、20歳そこそこの保母さんたちに子どもを委ねる。それはすごいことで、そういう関係性をつくり上げられたのはすばらしい。それって、いまの時代にもう少しあつてほしいなと思いますよね。100%でないにしても、「それでもあなたたちに委ねるよ」という信頼。

それから、もつとお互いに頼っているんだということ。この「保育疎開」は、優秀な保母さん2人ではできなかったと思うんです。ほどほどの保母さんやダメな保母さんもいたり、そういうひとたちが集まったチームだったからこそ、乗り越えられたと思うんですね。だから、もつとお互いに頼っているし、甘えていいんだと感じてもらえたらうれしいですね。制作にあたってのご苦労、あるいはうれしかったことはありますか。

それはなんと言ったって、子どもたちですね（笑い）。最初に、「53人（の子役）はちよつと勘弁してください」と言っている30人くらいの子役に参加してもらいました。30人と言っても、4〜7歳の子どもたちですから、どういうふう撮影していくかは苦労しましたね。なるべく子どもたちにはお芝居させないように、とは

話していました。けんちゃんとみっちゃんは芝居心のある子を探しましたが、そのほかの子はロケをおこなう現地の子たちでオーディションをしました。

撮影は松竹の京都撮影所が中心でしたが、30人の子どもたちが来るときに、30人ちかい親御さんが来るわけですよ。60人くらいを引き連れてロケーションに行くのは大変なので、スタッフが親御さんに説明して、何人かの親御さんに交代で子どもたちの面倒をみてもらったのです。保育所と同じですね。映画のなかでも保母さんたちのことをリスペクトしましたが、保育園で働く保育士さんたちを心からリスペクトしました。

それからラストにみんなで歩くというシーンは奇跡でしたね。あれだけのキャストが一堂に会することができたというのは。途中で逃げ出したサキちゃん（白石糸）という保母さんがいるんですが、彼女も含めて、疎開保育に参加した保母さんはすべて入っているんです。それが奇跡で、そこにむちゃくちゃ忙しい田中直樹さんや、橋爪功さんも来てくれて。「一人でも欠けたら（撮影は）止めよう」と言っていたんです。それが一人も欠けることなく揃いました。みんな道を歩

くという、私にとつてとても大事な思いのあるシーンだったので、うれしかったです。

一人で がんばらないで

—新採用の先生にむけたメッセージがあれば、お願いします。

一人でがんばらなくていいですよ。たぶん学校の先生になるひとつで本当に真面目な人が多いから、がんばりすぎずうまくように感じます。

先生の背中を子どもたちも見ているので、いろんなひとに甘えたり、助けてもらったりしている先生の姿を見せてあげるのが大事なんじゃないかなと思います。私も助監督だったときにそういうところがあつたので。自分の容量もだんだんわかってくるんですけど、なんのために映画のスタッフが40人も50人もいるのかと気づいた時に、「みんなで分け合おうよ」って思えるようになってから楽になりました。逆にいうと、そうすることでひとつのものをつくるためにみんな

協力し合える。「いま手が空いたから手伝えるよ」「これは苦手だから手伝って」とかね。そうすると、誰かが、カバーしてくれる。それは、どこの職場でも同じだと思えますよ。

今回の作品でいえば、「みっちゃん先生を見ていて、イライラして仕方がない」って人もいますよ。でも、みっちゃん先生は子どもにはめっちゃくちゃ好かれていて、彼女のいいところを利用して、苦手なところをカバーする。そういうふうに見える広さを持つてほしいです。

みっちゃん先生が楓にひっぱたかれるシーンで笑いが起きるんですよ。ひっぱたいたことに、楓も動揺して「暴力反対の立場でやってきた私なんで：」という葛藤も、あのシーンに織り込められています。でも、そこは楓とみっちゃんの間だけじゃなくて、二人の対立を見た正子先生（三浦透子）ほか数名の保姆が、しばらく心折れたみっちゃん先生のために奮闘しているわけで。そういう存在というの、感じてほしいと思います。

映画では会議をひらいているシーンがあるんですけど、そこには疎開した地でもなんとか民主的な方法でやろうとして

いる楓という主任の思いがあるわけです。戦局が難しくなっていくなかでも、めざすところは疎開での最初の夜に見たぐすり眠っている子どもたちの寝顔なんだよ。そこが私たちがめざすところなんだよ、と意思確認する場でもあるんですよ。

—これから地域での上映会がおこなわれていくと思いますが、映画を観ることの素晴らしさとはなんでしょうか。

映画館って体験なんですよ。家でパソコンやテレビの画面で見るのは体験じゃないんです。体験は、何か豊かになつていくものなんです。

山田洋次監督の映画「十五才学校Ⅳ」は、宮崎の中学生にエキストラで出てもらったので、そのお礼に体育館で上映会をやりました。映画館で映画を観たことがない子どもたちが8割か9割くらいでした。そうしたら、初めてみんなで一つのスクリーンで映画を観るっていう体験をした子がほとんどで、ものすごく大感激して、ちょっとしたところでもみんな大笑いするし、上映後いつまでも映画のことを話していたんです。それがすごく印象的でした。だから、映画は体験。ぜひ、みなさんにもいい体験をしてほしいと思います。

元氣！勇氣！本氣！根氣？

でも「呑氣」でいこうよ

八潮市立潮止小学校 宮田 祐介

2019年度、元号も変わり色々節目

の年にあたる今年度、念願叶って教職員になられた皆さん、まずもっておめでとうございませう！埼玉県の子ども達のために、志をもって共に働けることに、喜びを感じます。私がここに書かせて頂けていることも、何かのご縁と捉えます。そんな皆さんに、少しでも何か感じて頂き、今後の教職員生活の僅かな糧にして頂けたなら幸いです。さて、皆さんは「なぜ教師（教職員）になろうと思ったのですか」と、いきなり面接の様な質問で恐縮です。もう、そんな質問には散々と答えて来ましたね。失礼しました。しかし、どうでしょう。本当の気持ちには、実はまた違う胸の内にあったりなかつたりしませんか。私は実を言うつもりです。今をさる事10年前です。

《筆者プチ情報》

◆正規採用10年目（臨時採用9年、一般職1年経験済み）ここでまず年齢がバレます（笑）

◆中学校勤務4年（内、特別支援学級2回）、小学校勤務5年（1、6年生以外は担当する）

◆志望動機：高校教諭↓野球部顧問↓甲子園出場（夢にときめけ！明日に煌めけ！）

お解り頂けましたか。そうです。私は志望動機が曖昧かつ、全然叶っていません。この言い方をすると、本気で小学校教員を志望されていた方にはとても失礼になってしまうかもしれません。最初小学校の教員になる考えはありませんでした。なぜなら、大学で小学校教諭の免許を取得する課程がなかったからです。では、

なぜ小学校の教員を志したのか。ここが今回一番皆さんに伝えたいことかもしれません。

最初はやはり採用枠の問題がありました。中高の社会科の免許しか持っていなかった私には、当時一番倍率の高い採用試験でした。当時の所属校の校長から「小学校の免許を取ってみないか」と言われ、そこから私の志望動機は「小学校で働いてみたい」に変わりました。

その後、臨採で小学校勤務となり、素直で明るく大きな可能性を秘めた子ども達に出会い、「ああ、この6年間で色々なことができるんだな」と強く思いました。毎日が予期せぬ出来事の連続です。でも、それが楽しい訳ですし、子ども達は毎日それが自分達の全てであり、全力の出来事なので、す。

色々苦勞もしましたが、今、切に思うのが「義務教育の一番最初を受け持つ責任と大切さ・面白さ」です。その為に、自身が経験し培ってきた全てを活かして子ども達に還元すること。これまでの経験とこれからの日々の研修と研鑽を経て、さあ！子ども達と共に夢に向かって共に歩み続けましょう！

教員を目指していた気持ち 自分の大黒柱に

八潮市立潮止中学校 金井 宏伸

採用五年目の今年。今でも授業準備をする際に自分自身に問いかけている言葉があります。「何をこそ教えるか。」学生時代、本気で教員を目指す仲間とともに行なっていた教職ゼミ。当時指導していただいた先生方と仲間同士でお互いの指導案を見合いながら毎日のように言い合った言葉。それが「この授業であなたは何を教えるたいのですか？」

当時は学生なので当然のことですが、実際の現場のことは分からないし、どんな子どもたちがいるのかも想像もつかない中で、その時々を考えられる授業展開を指導案に込めていました。そして、仲間たちとともに指導案について議論してもらったり、模擬授業をしていたりしていたが、ついつい、一時間の授業に教えることを詰め込みすぎてグダグダな授業計画となつて

しまっていました。しかし、その当時の経験が今の自分を大黒柱のように支えてくれています。なぜなら教員は授業で勝負しなければならぬからです。目の前の子どもたちが、自分が教える教科に興味をもち、楽しく学べる授業を創り、実践していくことが何よりも子どもたちのためになり、そして自分自身の教員としての力量を高めるからです。

新たに教員になられた皆さん。皆さんはなぜ教員を目指したのでしょうか？子どもたちのために、自分は何をしたいと思つて教員の道に足を踏み入れたのでしょうか？それは人それぞれ違うはずですが。しかし、その中で私が皆さんに言いたいことは、教員になろうと思つた際の気持ちや子どもたちにかける想いをいつまでも自分を支える大黒柱としてもつていて欲しいということ

です。もっと分かりやすく言えば初心を忘れないということです。

今日、教育現場はどの職場においても多忙を極めています。経験のあるなしに関係なく、どの教員も目の前の子どもたちと仕事に一生懸命なっています。しかし、一方でそういう日々が当たり前になってしまつと、いつしか自分自身の思考が停止し、ただただ仕事をこなすロボットのような状態に陥ってしまうこともあります。職員会議などでの提案もそこに議論は無く、ただの発表会の場となり、誰もその提案に対して意見を言わずに取組が始まり「これは本当に子どものためになっているのかな？子どもも教員も大変じゃん……。」と思うこともあります。そんなときこそ、私はいつも自分自身に問いかけます。学生時代のあの言葉、「何をこそ教えるか」。

教員になつたばかりのみなさんは慣れない仕事にきつと毎日ぐたくたになつていてのことと思います。そういう時は特に自分の目標や想いなどを見失いがちです。そんなときこそ初心を思い出し、目の前の子どもたちのため、自分らしく教員として活躍して欲しいと思います。

1年目を終えると

県立深谷商業高校 田村 元

今年度採用になられた先生方おめでとう
ございます。教員として5年目になり、私
は教職が生徒と成長できるやりがいのある
仕事だとやっと感じられるようになってき
ました。

1年目に働いていたときのことを思い出
すと、辛いことが本当に多かったです。皆
さんの中にはそう感じている人も少なく
いのではないのでしょうか。授業では自分
が思い描く授業と生徒の求めるものに差を感
じながら授業をしていました。生徒が英文
を覚え、たくさん練習をすることで生徒は
力を伸ばすと思っていました。生徒から
は和訳の授業が良い、もっと説明が欲しい
など様々な意見をもらいました。その意見
を聞いて準備した教材でも上手いかな
いことばかりでした。授業中寝ている、話を
友達と続けている生徒の対応の仕方にも

苦労しました。時には声を荒げてしまつた
ときもあります。当然そのような授業は心
が辛くなるものでした。

部活では、女子バドミントン部の顧問を
していましたが、門外漢の競技で指導は全
くできませんでした。ほとんど自主的に活
動していた自分の高校時代の部活の雰囲気
との違いにも戸惑いがありました。教える
ことの少ない状況で生徒と接していると、
生徒との関係が上手くいかなくなってきま
す。時には生徒の一人にシャトルをぶつけ
られたこともあります。そのたび、生徒と
話し合いをしながら1年間顧問をしまし
た。

授業、部活両方が本当に辛いと感じがな
がら1年間を過ごし、何度も教員という職が
自分には合っていないと考えました。そん
なとき助けとなったのは、自分の授業を「楽

しい」と言ってくれる、よく話しかけてく
れる生徒の存在です。良くないことかもし
れませんが、1年目はそうした生徒たちが
頑張ってくれるように必死で努力をしてい
ました。

そこから、2年、3年と経ち、授業や部
活にも工夫ができるようになってくると生
徒一人ひとりの長所や短所が見えてきま
す。もちろんそんな時ばかりではありません
が、見えてきたことに一つひとつ向き
合っていくと毎日の仕事楽しく感じられ
るようになりました。

特に、3年間担任を持ったクラスが卒業
したときには、生徒の成長に感動し、もっ
とこうすればよかった、ああすればよかつ
たかもしれないという反省が、早くまた担
任をしたいという気持ちにさせてくれるこ
とに驚きとやりがいを感じます。

辛くも楽しくもある長い教員生活を過ご
していく新任の皆さんにとって、1年目は
とても辛い時期だと思えます。2、3年目
に生徒と話す機会が増えていくと、生徒と
一緒に成長していくのがやりがいになりま
す。辛いときは人に頼りながら頑張ってく
ださい！

相談できる人が

近くにいますか？

県立和光特別支援学校 澤井 宏至

私は、現在正規教員になって5年目になります。それまでは、臨時的任用教員として8年間養護学校、特別支援学校で勤務してきました。これまで、私は本当にたくさん先生の先生方に支えられて教員として仕事をしてきました。子どもの見方、捉え方から授業づくりについて等、様々な悩みを相談させていただき、学ばせていただきました。今年新たに先生になられたみなさん。近くに相談できる人はいますか？

私は、人見知りで引っ込み思案、自分から人と積極的に関わることが苦手です。そんな自分が先生になりたい！と思ったのは、臨時的任用教員として初めて勤務した学校での出会いでした。就職活動をせず、漠然と「教育実習がおもしろかったし、教員という仕事もいいな」と大学を卒業し、たまたま大学の先輩から紹介された養護学

校で働き始めました。「どうしても先生になりたい！」という思いから教員になったわけではありませんでした。しかし、いざ障害のある子どもたちを目の前にすると、子どもたちとの関わりが楽しい！授業ってこんな感じにするんだ！と毎日わくわくドキドキの連続でした。

そんな中、生徒の話と同じクラスの先生としていた時に、こんなことを言われました。「先生の思いや考えがそのまま生徒に伝わるんだよ。不安にさせるようなこと言わないようにね。」その時初めてそれまでの関わりを振り返りました。障害のある生徒と関わる経験のない私だけの判断で、生徒が流れに乗って行動したり授業に参加したりできるように言葉がけをしてきたつもりでしたが、それが実は生徒のためではなかったのでは？と気づきました。それから

は、言葉がけを気をつけることはもちろん、少しずつですが、一緒のクラスの先生や学年の先生等、様々な先生に相談し、生徒の指導や授業づくりに生かしました。私の場合は、組合の先生が身近にたくさんいたので積極的に相談しました。時にはくじけそうになることもありますが、近くに相談できる人がいることで安心して仕事ができます。

パソコン仕事が忙しい、いろんな仕事を任されて余裕がない、など、仕事に追われていませんか？隣に座っている先生、前に座っている先生、分掌や委員会と一緒に先生、近くにはたくさん先生がいます。一人で悩んでいるとわからないことも、いろんな先生と話すことで解決できることがあるかもしれません。なにかヒントが隠れているかもしれませんよ？それでもダメなら、組合の先生に声をかけてみましょう！必ず力になってくれます。「子どもたちのために」ともに頑張りましょう！

「養護教諭になってよかった」と感じる瞬間を

伊奈町立南中学校養護教諭 黒須 勝枝

4月から養護教諭になられたみなさん、どのような1学期を過ごされたでしょうか。初めて出会う子どもたちの健康状態の把握から始まり、たくさんさんの健康診断や行事が続く1学期は、気の休まることのない緊張した日々が続いたのではないのでしょうか。実は、30年の経験を重ねた今でも同じなのですが…。まずは、お互いにお疲れさまです。

さて、そんな中でもさまざまな子どもたちとの出会いがあったことでしょうか。思わず「かわいいな」「子どもっていいな」とつぶやいてしまうような場面、きつとありましたよね。逆に、子どもたちの抱える困難にどう対応したらよいか悩む場面もあったことでしょう。そんな時、誰かに「先生、聞いてください。こんなことがあったんです」と話せましたか。

職場で、先生たちは話しかけるのも申し訳ないくらい忙しそうに見えるかもしれませんが。でも、先生たちはみんな、子どもたちの成長を一緒に喜びあう仲間で、子どもたちが困難を乗り越えるための方法を一緒に考えてくれる仲間です。保健室では見えない子どもたちの姿やクラス集団とのかかわりを聞かせてもらうことで、子どもの見方が広がることはもちろん、先生方もクラスでの対応を考えてくださるでしょう。そして、職員室に「あの子、そんなにつらかったんだね」「あの子も本当はがんばりたいと思っているんだね」「あの子、そんなにいいことあったんだね」「あの子、成長したね」と、子どもたちのつらさに寄り添ったり、成長を確かめあったりする会話が広がるといいな、と思っています。

話は変わりますが、初めて先生になった

養護教諭の方からよく、「自分がやってみたいと思っていた実践が思うようにできない」という悩みを聞くことがあります。学生の頃に学んだ保健指導をやりたければ、実際に現場に入ってみたら養護教諭が保健指導を行う時間がなかったというようなことです。これも、ぜひ先生方と話しあってみてください。今、学校は保健指導以外にも多くの学習内容があり、その中で優先順位をつけて指導計画を作成していますが、子どもの実態から「やっぱりこの指導が必要だね」となれば、時間をとってもらえるということです。

それでも先生たちには話しくいと感じる悩みは、地域の養護教諭の先輩や気を使わず話せる同期の仲間に相談してみてください。私の場合は、学校外の養護教諭サークルなどにもできるだけ参加し、実践の悩みを聞いてもらい、課題を整理してもらうことも多くありました。もちろん、私たちが若い先生から教えてもらうこともたくさんあります。同じ養護教諭として、頼りあい、学びあい、「養護教諭になってよかった」と感じる瞬間を共有していきましょう。

みなさんの門出を祝って

女子栄養大学名誉教授 橋本 紀子

子どもたちの成長を助ける専門家として、学校で働くことになった皆さん、おめでとう！

学校には主に教えることを担当する教師とそれ以外のさまざまな実務を担う職員がいます。どの職種も子どもたちの成長・発達を促すための大切な役割を持っていきます。初めて、学校に子どもを通わせるようになった親たちの最大の関心事は、子どもが先生やお友達に慣れて、毎日、元気で学校に通えるようになるかということでしょう。学年があがり、そのような心配はなくなって、子どもたちが長時間を過ごす学校が、快適で楽しい学びの場所であってほしいという願いは共通してもっています。だから、新しく教職員になられた皆さんにも、子どもたちが相談しやすい、話しやすい学級、学校づくりをお願いします。

私も人に何かを伝える、教えるという仕事を40年近くしてきました。相手は大学生でしたが、教えるという仕事は一緒です。最初の1年間は担当科目の授業準備、ノート作りに追われます。自分の専門に近い分野だつとい、資料が多くなり、伝える相手のことを考えずに、情報を詰め込みたがります。当時、ベテランの小学校の先生の授業を参観させてもらいましたが、その先生は1時間の課題を1つか2つに絞って、子どもたちの身近な話題から、子どもの認識の筋道に寄り添って、多様な形でその課題に迫っていました。子どもの発達段階に即した教育方法とは、何よりも伝える相手のことを良く理解していかないといけないのですね。近年、学校は新しい科目が増えたり、

報告事務が増えたりで、教師から、子どもと話す、係る時間を奪っていると聞きます。

そういう中でも、皆さんには、是非、先輩の教職員の方々と情報を共有して、できるだけ、多くの子どもたちの状況を把握した上で、授業や諸活動を展開してほしいと思います。

各教科の専門的な知識とスキルに裏づけられた授業内容の提供や、発達段階に応じた子どもの理解、障がいをもつ子どもや多様な性の子どものについての理解、子どもの背景にある貧困格差等の社会的問題への理解を深めるためには、継続した学習が必要で、さまざまな研修会への参加だけでなく、自分の関心に沿った研究課題を追求している研究会やサークル等への参加によって、視野を広げ、また、多くの先輩教師の実践からも学んでほしいと思います。教職員それぞれが、個性的で、輝いていることが子どもたちを豊かにしてくれます。

みなさんの今後に、おおいに期待します。

新しい先生達へ

久保 祐子

人生の新たな第一歩、おめでとうございます。私は、小学生の息子を育てる母親です。教職員になられた皆さんに3つのお願いがあります。

怒らないでください。怒鳴らないでください。常にやさしい先生でとは言いません。私も常にやさしい母親ではいられませんので(笑)先日は、「先生に叱られたけれど、先生の言い方はやさしかったから大丈夫だったよ。ママもそれでお願います」と言われてしまいました(笑)そして、先生に言われたことを笑顔で報告してくれました。

時に叱ること・諭すことは必要です。危険な時には、大きな声を出すことも必要です。でも、常に強い口調で叱っているとその内容よりも先生という存在におびえてしまいます。おびえさせて従わせるのではなく、何が悪かったかを子ども達に話してください。

みんなと同じことができないことを責めないでください。

入学前の子どもの達の環境は、それぞれ大きく違います。幼稚園、保育園ごとの教育・保育方針の違い、未就学からの習い事の有無、ご家庭でも外遊び室内遊びどちらが多かったか：etc。しっかりとひらがなを教え、運動会では集団行動を発表する園もあります。そういう子どもたちは、入学後も手がかからないでしょう。

息子が通っていた園は、子ども達の自主性重視の自由保育。登園すると、自分のやりたいことをやれる部屋に行ったり、外に出たり。集団の時間も、何をやるかを子ども達と先生で相談して決めます。入学後の息子は、やることを決められ、時間の制限があることに戸惑い、「幼稚園に戻りたい」と小1の1年間言い続けました。「うちの子たちは、3年生になったら真価を發揮する！」

園長先生のお言葉です。

そんな子ども達に同じことを教えても、差があるのは、当たり前です。それを受け入れてください。

子ども達の話を聞いてあげてください。

先生に相談ができるのは、信頼している証です。それにこたえてあげてください。解決策にならなくても、一緒に考えようでもいいのです。話を聞いてくれても、放っておかれると子どもは不安になります。「先生に話したけれど、何もしてくれなかった」さびしげなつぶやきを聞きました。どんな内容でも子どもにとっては、ささいなことではありません。

また、第1子入学の場合は、保護者も新生児です。小学校のことがわかりません。先生方が忙しいとわかっていても、不安感から相談事が多くなるご家庭もあると思います。大変だと思いますが、話を聞いてあげてください。ただし、先生も抱え込まないで、手に負えなければ、他の先生に相談なさってください。そして、保護者に責められても、どうぞ落ち込まずに。耳に届かなくても、先生の味方の保護者がいることをお伝えしておきます。

子育て中の母より

さいたま教育文化研究所は、こんな活動をしています

- ◆研究所は、埼玉県教職員組合と埼玉県高等学校教職員組合の力で設立しました。現場の教職員、父母市民の力を得ながら、共同して研究活動をしています。
- ◆研究所には、11の研究委員会があります。現場教職員、父母・保護者・地域の方が一緒になって話し合い、研究活動を行っています。その委員会を紹介します。

(2019年4月現在)

研究委員会	研究テーマ内容	研究委員会日
国語教育研究委員会	全国・県教研活動に協力共同で報告内容検討および問題点の整理／指導内容等研究	年6回 土曜日午後14時より
理科教育研究委員会	中学校・高校の 理科単元内容・授業研究	月1～2回 金曜日午後6時30分より
外国語教育研究委員会	中・高の英語科教育の指導内容の研究・わかりやすい指導方法・文法指導法・*小学校の英語教育問題その指導内容など検討	隔月不定期
平和人権と教育研究委員会	「憲法を守り生かす教育」をテーマに、交流授業（小・大）、実践研究など・「教育基本法・憲法24条について」	毎月不定期 火曜日午後6時30分より
入試・中等教育研究委員会	県立高校再編整備について・中学校卒業予定者進路状況調査結果から	隔月第1火曜日 午後6時30分より
障害児教育研究委員会	小学校特別支援教育についてのまとめ現状を冊子に編集・他の特別支援教育について研究・「なじめない子」などについての学習会設定	月1～2回 火曜日午後6時30分より
労働安全衛生研究委員会	アスベスト災害裁判公判研究・緊急提言学習・各市町村の取り組み把握・勤務時間問題・労働安全衛生についての啓発	2カ月に1回、不定期
教育課程・授業づくり研究委員会	中学校の道徳教科書批判、「特別の教科道徳」の実践状況と評価の動き	実務者会議・全体会議年13回「子どもたちと共に楽しい道徳の授業をつくる会」4地域会場各々月1程度
登校拒否・不登校問題研究委員会	不登校や引きこもり等の問題について話し合いなど	隔月不定期

- *他に、2012年より「教科書・採択問題活動交流会」を毎月1回、「主権者を育てる学校像研究委員会」（一昨年からの研究をもとに研究冊子を発行）があります。
- *また、所員の派遣等での「地域の研究会、学習会」が行われています。
- *これら上記の研究委員会へは、自由に参加し研究活動ができます。現職教職員の方、退職教職員の方、ご連絡ください。
- *「地域に関する研究活動」「文化的分野研究活動」に関心はありませんか？その他、研究に関すること、ご自由に連絡ください。

病 気

◆病気休暇

病気休暇は、90日まで有給で取得可。



子 育 て

◆育児休業

子どもが3歳に達する日まで取得可能（男性も可）

◆子育て休暇

子ども1人の場合7日、2人以上は10日取得可。子どものけがや病気の看護、学校行事が対象。

介 護

◆介護休暇

病気、負傷、老齢などにより2週間以上にわたり日常生活を営むのに支障がある者の介護をおこなうための休暇。1つの継続する状態ごとに6月の期間内

※範囲／配偶者、父母、子、配偶者の父母、祖父母、孫、兄弟姉妹、事実上の父母や子



一人で悩まず、仲間に相談を
職場のいじめ、パワハラ、セクハラ

048 (824) 2511 埼玉県教職員組合

048 (822) 7421 埼玉県高等学校教職員組合

生き生きと働きたい

働く

◆年次有給休暇

すべての教職員

◆生理休暇

1回の生理につき2~3日
(電話で伝えるだけでもOK)



結婚

◆結婚休暇

結婚生活に入るための諸行
事をおこなうために5~7
日の休暇

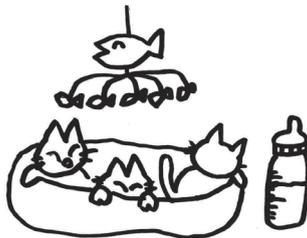
妊娠

◆通院休暇

妊娠中および産後1年以内
に、保健指導・検診審査を
受けるための休暇

◆通勤緩和休暇

妊娠中、母体の健康維持を
はかるために、一日1時間
以内の勤務時間の繰り上
げ・繰り下げができる



出産

◆出産休暇

労基法では産前6週(多胎
児14週)、産後8週。2週
間の加算があります。

◆出産補助休暇

配偶者の出産にあたり、夫
である男性教職員に2~3
日の範囲で認められる

人権教育に携わって

県立松山女子高校 今井 洋

1、はじめに

私は、今年で教員生活39年目を迎えます。一昨年定年退職し、昨年度は再任用フルタイム勤務、今年度は再任用短時間で勤務しています。専門教科が社会科（現地歴・公民科）という事もあり現在までの勤務校4校では、全て人権教育推進委員を経験しています。現任校には、2007年度に赴任し13年目になりますが、その中で5年間人権教育に携わり、その内4年間は委員長を務め、昨年度と今年度も委員長を務めています。

2、勤務校紹介

県立松山女子高校は、今年度で創立94年目を迎える伝統校です。各学年8クラス、約960人が在籍しています。部活動が盛んで、特に合唱部や書道部、空手道部、陸上競技部、などは、毎年のように全国大会に出場しています。また、生徒会活動も文化祭を筆頭に、生徒が中心となって行っています。生徒の多くは、中学校時代は、クラスや部活動ではちょうど真ん中の層が多く、真面目で素直なのですが、積極性や自

主性、向上意欲が、少し物足りないと言った印象です。授業は、静かな雰囲気が進み、ほとんどの生徒はノートをきちんと取るなど授業に集中していますが、教師の質問に積極的に答える生徒は少なく、自己主張が苦手なためか、今一つ元氣・活気がない点が私には物足りません。そのためか、生徒指導案件はほとんど無く、平和な学校ではあります。

3、本校の人権教育の取組

本校の人権教育は、私が今まで勤務した学校とほぼ同様の内容です。

生徒・教員共通の年間の講演会が、3年生は1学期に、1・2年生は3学期に外部講師を招きそれぞれ実施します。さらに、1・2年生は学年ごとに1時間程度、学年独自の人権教育の時間を設けています。日時・内容については、各学年に学年の担当の係が2名ずついるので、学年担当係が自由に決めています。

また、人権教育推進委員会が担当ではありませんが、近隣の川島ひばり特別支援学校と東松山特別支援学校との交流会が、それぞれ年1回行われています。

前述した様に、各学年の取り組みは、学



(本文とは関係ありません)

年裁量に任されているので、年によって内容が変わります。3年生では、社会に出て行く前に差別に対して、それを乗り越えるヒントとして、ここ4年は、「働く者の人権」と言うテーマで、弁護士や労働組合で労働相談を行っている方を招き、講演会を行っています。これは、私が強く働きかけた実現した面が強いのですが。その意図は、「松女生は、真面目で素直な生徒が多いが、自己肯定感が低く、自己主張が苦手で自分

の意見を面と向かって言えない。指示待ちタイプの生徒が結構おり、流されやすい。」その生徒が、社会に出てからブラック企業やブラックバイト等で都合よく働かされ、使われてしまうのではないかと、せめて生徒が社会に出た時に自分の身を守るための知識が必要ではないかとの危機感で、何とかしたいという気持ちからでした。周りの教員たちと話すと、大なり小なり同じ感覚を持つ教員が多いので、4年前に担任団の一員だった3年生でこの企画を提案し、埼玉弁護士会の鴨田弁護士に講演を依頼し講演してもらいました。生徒にも好評で、それ以降同様の企画が続いています。

2年生では、実施要綱では部落差別等差別の歴史について学ぶ予定になっていますが、必ずしも部落差別問題を取り上げるのではなく、学年担当と学年団の教員で、自由なテーマを考えて実施しています。昨年度は、沖縄への修学旅行の事前学習と連携し、平和教育の一環として沖縄戦と戦後の基地問題をテーマに人権教育を行いました。

1年生では、拉致問題を扱った「めぐみ」のビデオを視聴し、感想文を書くというパターンが続いています。

全生徒対象の講演会では、女子高である

ため、女性の社会進出と女性であるために受ける差別や不利益について、その中で自立した女性になるためには、これからの女性の生き方は、等の講演が多いのですが、近年はLGBTに関して当事者の方々をおよびしての講演、途上国や日本国内の子どもの貧困について国際NPOや新聞記者の方々を招いての講演、など実施しています。

4、人権教育について

私が考える人権教育とは、時の政府の方針に左右されるものではなく、あくまでも日本国憲法にのっとり、日本国憲法に明記されている基本的人権が守られていない現状を知り、「それはおかしい」との疑問を感じ、「どうしてこうなっているのか?」「なんとかすべきではないか、」「どうしたらいいのか?」「もし、自分が当事者になった時にはどうするのか」などと生徒が考える、そして、様々な差別や人権侵害の当事者やその場面に直面した時にはどの様に行動するのか、すべきなのか?を考慮してもらおう機会となるべきものだと考えています。教師や学校が、ましてや県教委や国がこの様に行動しなさい、この様に考えなさい。と強制するものではないと考えています。

5、道徳教育との絡み

教育基本法を変えた現内閣は、道徳教育の教科化を進め、小中学校では既に教科として授業が行われ評価されています。高校では、高校生のための「人間としての在り方生き方教育」として埼玉県が作成した道徳教育の教材「明日をめざして」を使つての授業、話し合いなどを行うよう指導がされています。年度末の調査での県教委のアンケートでは、必ず「明日をめざして」を使用したかが聞かれます。全ての高校では、道徳教育推進教員を置くことが求められ、本校では本年度は人権教育推進委員が兼任することになり、本年度は私になりました。

私は、道徳教育を必ずしも否定するわけではありませんが、現在のお仕着せの道徳教育は、生徒の人格形成にとってほとんど意味のないものになっていると思います。大人が思っている以上に、子供は世の中のことや目の前の大人を見抜く感性を持っています。

大人が、国民から選ばれた代表者が、企業のトップが、公務員のトップが平気で嘘をつく、言い逃れや「ご飯論法」を恥ずか

しげもなく言っていることを見れば、大人が進める道徳教育とは、建前であり、虚構であると見抜く力を持っています。

道徳教育を強化するなら、先ず責任ある立場の大人達が子供に手本を示すことが一番の道徳教材になるのです。残念ながら現在の責任ある立場の大人の多くは、そのような言動、行動をとっていません。うがった見方をすれば、そのような現状だからこ

そ道徳教育によって、上に逆らわない、本音と建前にうまく折り合いをつけ、従順な、現状維持に満足する、感性や疑問を持たない国民を作つて行こうという意図があるのかもしれない。

人権教育は、少なくとも政府から強制されて行かう道徳教育とは別の立場、前述した視点でこれからも行くべきであると思いません。



(本文とは関係ありません)



ハンギョレ新聞社ロビーにて

埼玉AALA「平和の旅」ソウル充実の4日間

社会運動家、学者、ジャーナリスト、

マスコミ労組人々との交流

埼玉AALA連帯委員会理事長 河内 研一

日韓関係は今や最悪といえる状態となっています。戦争責任論、植民地責任論を頑なに否定し続ける安倍政権の姿勢が、「慰安婦」問題や徴用工問題の解決の糸口さえも遠ざけています。加えてそれに迎合するマスコミ論調や右翼出版物の横行が、国民の中に反韓・嫌韓のヘイト感情を増幅させています。そうした中、日韓双方の良識ある市民同士が交流し相互理解を深め合う、そんな地道な努力の継続こそが、両国関係の真の友好へと繋がる希望となっていくのではと考えています。

埼玉アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会（埼玉AALA）の第22回目となる「平和の旅」はそうした思いから、交流を中心据えてのソウル4日間（1月8日～11日）というツアーを企画実施しまし

た。掲げたテーマは、「①キャンドル革命から学べることを探る。研究者、市民との交流。夜の光化門広場に立ち、100万を超えた人びとの灯す光の海に思いを馳せる。②ハンギョレ新聞、KBS放送局を訪問し、現役記者やマスコミ労組と交流。ジャーナリズム、公共放送のあり方を考える。③板門店等、歴史の現場に立ち、これからの北東アジアの平和を考える」の3つでした。帰国後、幾つもの団体や個人から問い合わせをいただき、今もその対応に追われています。埼玉AALAの今回の旅が、市民団体としての日韓交流の一つのあり方を提示できたとすれば、喜びもひと入です。以下、交流を中心にご報告致します。なお、準備段階からソウル在住の村山俊夫氏（韓



ソウル大学 南基正先生

国で起きたこと、日本でも起きるかもしれないこと』の著者)には大変お世話になりました。

まず最初に訪れたのはキャンドル革命を主導的に担ったとされる参与連帯の事務所です。事前に連絡を取り合っていたイ・ミヒョン幹事(村山氏が事前インタビューして写真まで送ってきてくれていたのです)は都合が悪くなり、若手幹部の沈鉉恵(シム・ヒョンドク)幹事が応対してくれました。彼は映像を駆使しつつ、創設から機構・組織、日常活動からキャンドル革命に至るまで、社会に根ざした具体的な活動実態を質問に答えつつ熱く語ってくれまし

た。内部組織の一つである、平和軍縮センター・国際連帯委員会のチーム長ファン・スヨンさんとの交流もお願いしてあったのですが、今回2時間枠でも時間が不足し残念ながら実現できませんでした。

ソウル大学日本研究所・研究部長の南基正(ナム・キジョン)先生(日韓関係を専門とする国際政治学者)は私たち一行15名のために特別講義を引き受けて下さいました。これにはガイドの朴承淑(パク・スンスク)さんも驚いていました。南先生は日本AALAが2015年に開催した国際シンポジウムのパネリストの1人で、『日本AALA理論情報誌』(第5号)にも執筆していただいています。私は南京大学の劉成先生のお世話係でしたが、シンポジウムのご縁もあって今回の特別講義が実現しました。南先生はご自身の生い立ちから日本との関係、そして研究者としての歩みを語られた後、戦場国家(韓国)と基地国家(日本)が負の植民地遺産を克服して北東アジアに非核兵器地帯を実現していくためには、日韓双方の市民社会のそれぞれの政府への働きかけが不可欠であることなどを講義して下さいました。南先生との和やかな会食後、村山さんが夜の光化門広場を案内してくれました。ここを100万本の

キャンドルが埋め尽くしたと思うと、凍てつく寒ささえもが感動でした。

最初の準備段階で伊藤千尋さんから推薦されたハンギョレ新聞初代編集局長の成裕普(ソン・ユボ)さんは既に亡くなられていましたが、初代東京特派員だった金孝淳(キム・ヒヨスン)さんとは連絡がつかしました。早速彼の近著の日本語版『祖国が棄てた人びと』(明石書店2018)を感動をもって読みました。退職して大分経つからと遠慮された彼が紹介してくれたのが吉倫亨(キル・ユニョン)記者(前東京支局長・国際部チーム長)です(村山さんはハンギョレ新聞社をも訪ね、彼に会って来てくれました)。ハンギョレの社史や現在抱える課題等を流暢な日本語で解説してくれました。日韓双方の「ネットウヨ」からのバッシングも凄そうですが、日本の市民社会からの長年にわたる真摯な努力があった事実、それを韓国社会は忘れてはならないという立場で記事を書き続けたいというキル記者。これからも関係を大切にしていきたいジャーナリストです。

KBS新労組(全国言論労働組合KBS本部)はイ・ギョホン委員長自身が交流を快諾してくれていました。出発前日



DMZ（非武装地帯）モニュメント前にて

の連絡で文化部所属のソン・ミヨン執行委員に変わりましたが、当日はチョン・ソングン副委員長が交通事情で遅れた私たちの到着を待ち、歓迎の挨拶をしてくれました。日本から迎える多分初めての訪問団に若干の戸惑いもあったようですが、映画『共犯者たち』の話題もあつてすぐに打ち解けた交流となりました。そして映画のエンドロールで延々と紹介された300人の処分

者の中に名を連ねていたソン執行委員からは以下の様な説明がありました。現在、新聞、放送などの産別組合である全国言論労組（1万3000人）の中でKBS新労組は2400人で最大であり、社員数4500人のKBSでいえば組織率は50%を超えること。プロデューサー、記者などに限れば組織率は90%であること。2009年3000人だったKBS労組から別れて600人でスタートし、闘いを通じて2400人になったこと。「現業」中心の旧労組は現在1200人。50人程度の保守的な第3の労組も存在すること。2017年9月から142日にわたって闘われたストライキは、賃上げや労働条件改善が目的ではなく、「放送の正常化」、即ち放送の公正性の実現が目的であり、市民からの支持も得て勝利できたこと。スト中は管理職による最少限の生放送であとは再放送番組であったこと等々。

意見交換では、NHKとの比較等で議論は大いに盛り上がりました。これも参加者からの本質を突いた質問や意見があつたればこそだったと思います。最後は私が以下のような希望を述べました。自宅ではBBCやCNN、CTVだけでなくKBS Worldもみられるのだが、KBSはド

ラマばかりでニュース番組が乏しく面白くない。しかもニュースには同時通訳はおろか日本語の字幕もつかない。再生を果たしたKBSには是非ニュース番組の充実を期待したいと。

交流以外では、西大門刑務所歴史館、タブコル（パゴダ）公園、安重根記念館、戦争と女性の人権博物館などAALAらしい見学地を見て回りました。取り分け安重根記念館は四半世紀ぶりの訪問でしたが、改築・改装されて展示内容も充実。また私たち日本からの訪問者に対して、韓国人の見学者たちからも記念館スタッフからも温かな眼差しが注がれていることをひしひしと感じることができました。残念ながら板門店までは行けませんでした。都羅展望台では、まだ終わっていない戦争の終結と平和への期待を胸に、イムジンガンの対岸に目を凝らしたのでした。

（2019年3月の発表文に一部加筆）

性の多様性を前提とした教育のありかた

埼玉大学非常勤講師 堀川 修平

大学の授業で私は、マンガやドラマ、歌詞などを紹介しながら、ジェンダー・セクシュアリティ問題を身近なものと感じてもらおうとしている。ある時、受講者から「是非、『しまなみ誰そ彼』（鎌谷悠希作・全4巻）を読んでみて」というコメントをもらった。昨今、「LGBT」と分類される性的マイノリティを扱った作品は増えている。BL（ボーイズ・ラブ）と呼ばれる男性同士の恋愛を描いたもの、百合（GL・ガールズ・ラブ、女性同士の恋愛）を描いた作品もある。だがその多くは、性的マイノリティを消費の対象として、つまりマジョリティの「おもちゃ」として使い捨てるが如く、作品となっている。

しかし、『しまなみ誰そ彼』は、かれらとかれらを取り巻く社会の性に関わる

差別問題を痛烈に描きだす。舞台は、とある高校。ゲイ（男性同性愛者）ではないかと疑われた主人公「たすく」に向けて男子生徒からさまざまな言葉が投げかけられる。「たすくはホモっぽくなくね？」「でもホモ動画見てたんだしガチじゃん」。そして、「ホモ探し」は、他者へも向けられていく。「3組のあいつは？眉毛すげー整えてる」、「でもあいつ彼女いるよ」、「どうよたすく君、同じニオイする？」と。たすくが「ゲイ」であるなら、「同類」を見分けられるだろうと、残酷な言葉が投げかけられる。

「LGBT」と性の多様性

「LGBT」とは、レズビアン／ゲイ／バイセクシュアル／トランスジェンダーの頭文字をとった用語である。しか

し、この4種類だけが性的マイノリティではない。インターセックス（性分化疾患）やAセクシュアル達も存在するし、近年では当事者のカミングアウトによって、50以上のカテゴリー名が生まれている。つまり、人の数だけ性は多様に存在すると認識され、「性の多様性」と表現されている。

「性の多様性」とは、性別は「身体的性別」「性別自認」「性役割」「性的指向」など複数に分けられると認識され、それらがグラデーション状になっているとする概念である。これまでは、「身体的性別」観から、世界には男女の2種類の性しか存在しないと考えられて（「性別二分法」）、異性愛者しかいないことを前提とする社会システムが設計されてきた（「異性愛中心主義」）。しかし、「性の多様性」

概念によって、性別二分法かつ異性愛中心主義社会の問題性が指摘されるようになってきた。

人権としてではなく、消費財として

近年、性的マイノリティのメディア露出が増えてきた。昨年話題になった深夜ドラマ「おっさんずラブ」や、本年話題になった「きのう、何食べた？」も人気だ。他にもテレビ局各局がドラマやバラエティ番組で性的マイノリティを登用している。ある種のブームにもなっているといえよう。

「ブーム」は過去にもみられた。1990年代に「Mr. レディ・ブーム」、2000年代半ばからは「オネエキャラブーム」が、そして2012年以降には「LGBTブーム」が起きている。タレントを「オカマ」や「オネエ」と呼び、からかいの対象とする。かれらをイジめることで笑いを生み出す。しかし、ブームは一過性で、かれらの存在は忘れられてしまう。つまり、かれらの存在の忘却と消費が密接につながっている。とりわけ、2012年以降の「LGBTブーム」は、電通や博報堂が調査で導き出した「LGBT

BT人口」や、「レインボー消費」と呼ばれる性的マイノリティの消費活動への促進で誘発された、いわば仕掛けられた「ブーム」だ。耳にする「LGBTは13人に1人」「クラスに2〜3人」という数字は、性的マイノリティの存在を、あらたな市場開拓のターゲットにしたものだ。

日本は性的マイノリティに対して「寛容」であると語られることが多い。しかしそうではないことが調査によって明らかになっている。例えば、「仲の良い友人から『同性愛者』であると告げられたら、どのような気持ちになると思いますか」という問い（複数選択可）に対して、2割程度が「聞かなかったことにしたい」、1割半近くが「気持ち悪い」と答えている。また、近所の人（3割台）、同僚（3〜4割台）、きょうだい（6割台）、自分の子ども（7割台）という順に「いやだ」と答える割合が高い。つまり、日本においては性的マイノリティに対して拒否反応を示す割合は低くない。調査の結果は、親密圏から距離が離れるほど、拒否反応は強く、同時に、タレントなどの「他者」は、自分とは関係のない無関心の対象として位置付いていることを示している。

「透明化」される性的マイノリティ

性的マイノリティの子どもや若者に対するいじめ・自殺対策などにとりくむNPO団体「いのちリスパクト。ホワイトリボン・キャンペーン」が性的マイノリティ当事者609人に行った調査は、性的マイノリティであることを、誰にも話せないかごく少数の他者に伝えるに留まっている回答者が約4分の3もいるとされている。その理由は、告白することによって予想される不安や差別への恐怖だ。当事者が自身のことについて表明しない限り、そこにかかれらは存在しないとみなされる。

メディアの「当事者イジリ」を「学習」した子どもたちが、学校空間においてそれを再生産する。子どもたちも教師もそれが人権侵害だという認識がないために、当事者が「告白」することを困難にする。当事者が「隠れ」続け、その存在が透明化されていけば、その空間は当事者や支援者にとって生き辛い。その結果として、性的マイノリティは、自己受容と自己肯定感を希薄化させ、場合によっては、自らを自殺にまで追い込むことになる。

普遍的な人権としての「性の権利」と包括的性教育

性の話は真面目にするものではないとか、いずれ自然に学ぶものだから「寝た子を起こすな」とする考えが一般的であるかもしれない。こうした言説は、国會議員や地方議員らによって性教育を学校教育で保障しないための言い訳にも用いられてきた。

「性の権利」という用語が登場したのは、1995年の北京女性会議であり、第14回世界性科学学会（1999年、香港）で「性の権利宣言」が採択された。ここでは、「セクシュアリティ（性）は、生涯を通じて人間であることの中心的側面」と述べ、性の権利は「普遍的な人権」として定義されている。また、包括的性教育への権利が明示されており、それを受けてユネスコなどによって『国際セクシュアリティ教育ガイダンス』が出された。

包括的性教育は、性に関する知識と理解を増進することや、リスクを小さくするための行動を促進することとしている。それは、「生殖の教育」や「性交の教育」という狭義のものではなく、家族や友

人、親密な人びととの人間関係と性について考えることを核に置いている。「友情、愛情、人間関係」や「性的行動に関する規範と仲間への影響」、「ジェンダーとジェンダー規範の社会構造」などを考えるということだ。また、「（性は）こうあるべき」という押し付けも排除されている。それは、これまで狭義の性教育を取り扱ってきた保健体育科や家庭科、理科だけでなく、生活科、社会科、国語科、特別活動などでも包括的性教育の実践がなされることを要請している。

多様な主体が集う学校において性の多様性を学び、それを尊重した教育環境を構築することは、国際的に「あたりまえ」の潮流になってきている。

文部科学省「通知」の意義と限界

文部科学省から『性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について』（2015）や『性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について（教職員向け）』（2016）などの通知が出されており、ここでは当該児童・生徒に対して個別対応をすることを促し

ている。

性の多様性は、個別対応も多様性を要求するので、対応の仕方を詳細に述べることは難しい。トランスジェンダー（TG）の子どもの抱える問題を一例として考えてみよう。TGの多くが、自己の性別自認と身体的性別の不適合に悩んでいる。学校における「性別」は、戸籍の性別と一致している身体的性別を基準にしている。そこで、TGの子どもは性別自認と適合しない制服を着なければならぬことに悩むことになる。また、校則で頭髪検査がある場合、性別自認が身体的性と異なる子どもは頭髪の長さについて悩む。「男だったら髪の毛は短くすべき」という「らしさ」のおしつけ（ジェンダー差別）が背景にあるからだ。

他にも、呼称（さん・くん）やトイレの利用、運動部の活動、修学旅行など「性別」で区分する様式が通例化されていることが性的マイノリティの子どもたちの性別自認との激しい矛盾を引き起こす。

このような学校文化・制度のもとで苦しんでいる子どもに対しては、まずは、当事者の希望を丁寧聞き取り、「配慮」することが「個別対応」の第一歩となる。例えば、あなたの希望する制服の着用を

認めるというように。こうした対応が深刻さの軽減につながることもあるだろうが、そうした「個別対応」は、あくまで「特別扱い」ではない。

均質性や画一性の 制度・文化の問い直しを

先の「通知」では、性的マイノリティを「特別扱い」することのないようにとあるが、「特別扱い」しない「個別対応」とはいかにして可能なのだろうか。「個別対応」は、えてして、マジョリティの制度と文化に同化・同調させる説得になりかねない。性的マイノリティが「特別扱い」されずに安心して学校生活を送れるようにするためには、既存の学校文化や制度そのものを問い直す必要がある。TGと分類されるとしても、人によっては身体的性別を性別自認に一致させたい子どももいれば、身体的性別を一致させなくとも、日常生活を、性別自認を尊重して過ごせられれば安心できるという子どももいる。性の多様性のありようはこのように複雑だ。それゆえに「個別対応」は、無数に存在化し一般化できない。

「特別扱い」せず、また同化・順応させる方向ではなく人権尊重の観点から対応

しようとするれば、それは多様な性の在り方を抑圧している学校文化全体の見直しに進まなければならない。学校では効率化の名のもとに、男女別名簿や性別による色分けを採用している場合も多いのだが、それ自身が、ジェンダー差別を教室の中で再生産し、子どもたちがそれを社会の「常識的文化」として身体化するこ

多様な主体を視野に入れた 教育へ

最後に神奈川県公立小学校の田中武史という教員による小学一年生の教育実践事例を紹介したい。学校の文化・制度を見直さないまでも、子どもたちのジェンダーバイアスを回避できる実践ができることを示す事例だ。一つは、熱中症対策で水筒を持ってきたときの話。田中が、水筒をまとめておくために、何気なく段ボール箱を2つ用意したところ、子どもたちは男女別に水筒を入れ始めた。子どもの行動には、身体化されたジェンダーが反映している。あなたならどうするだろう。男女別にはならないように大きな段ボール箱を1つ用意するだろうか。田中がとった行動は、3つ段ボール箱を用

意するということだった。すると子どもたちは性別に関わらずに水筒をしまっていたという。

もう一つのエピソードは、国語の授業のことだ。「わたし」や「ぼく」の他に、「じぶん」という呼称を使ってもよいという指示を出すと、何人かの子どもが「じぶん」を使い始めた。「じぶん」という呼称は、「わたし」や「ぼく」というあてがわれた性別を回避できる効果をもつ。性別自認と身体的性別の不一致に悩む子どもにとって重要な視点だ。

田中は、「少ない選択肢の中で窮屈に感じている子どもって実は結構いるのかもしれない」と実践を振りかえる。この実践は、多様性を大切にすることと均質性や画一性を問い直すことはつながっていることを示している。性的マイノリティの子どももそうでない子どもも尊重される場を作るためには、一人ひとりが多様であるということを保障していく必要があるのだ。

註・文中の「かれら」表記には性別二文法をさける意がある。紙幅の都合上、参考文献は詳細に表せないが、石田仁『はじめて学ぶLGBT』ナツメ社2018に負う所が大きい。

語教育は専門教育を受けた教員の仕事で、本来免許を持たない教員に外国語教育をさせてはならないものです。教員のストレスは相当高くなるでしょう。大きなストレス要因です。仕事は増えるが教職員は増えず、仕事の量と質が限界をこえる状況になっています。

(3) 職場の支援が弱くなっている

「忙しさは心を亡くす」といいます。超多忙な職場環境で、自分のことで精一杯、他のことに気が回らない、自分のかかえている悩みを忙しそうで職場の同僚に話せない、同僚のことは気になるが、聴く時間、余裕がないといった職場の現状があります。上司や同僚のサポートが多忙化で弱くなっているのです。

(4) 「保護者等とのトラブル」が要因 (図))

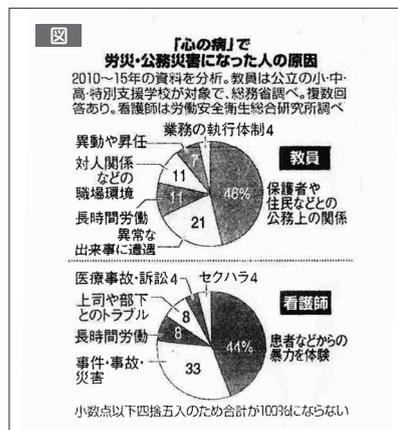
厚労省の調査によると教員の「心の病」の要因について、46%が「保護者や住民などの公務上の関係」という結果が明らかになりました。

近年、保護者による教員への過度・執拗な要求が増え心理的な負担の大きさから心を病む教員がふえています。複雑化した社会状況から、保護者も大きなストレスを抱えていることもその背景にあります。

メンタルヘルス不調、増加の要因について、仕事の量と質が許容範囲をはるかに超えていること、職場の支援が希薄になっていること等をあげました。これらに対する本格的な対策なしに改善はありません。

3 メンタルヘルス不調予防の対策

心が病んでいては豊かな生き方、よりよい教育を実現することはできません。心の健康を確保する取組として主に3つの取組を提起します。



(1) 長時間労働を早急に改善する

* 長時間労働が心の健康を壊すことがあきらかになっています。諸業務の縮減、会議の精選等で時間外労働対策を進めます。

* 心の健康を保つために「自分の為の時間」を確保し意識的にストレス解消を図ります。(セルフケア)

(2) ストレスチェック結果の有効活用を図る

* ストレスプロフィール(心の健康診断結果)で心の健康状況を理解し、診断アドバイスをもとに日常生活に活かします。

* 職場の集団分析結果(ストレス判定図)をもとに教職員参加型の職場環境の改善に取り組みます。

(3) 良好なコミュニケーション職場の形成を重視する

* トップダウンからボトムアップへ

* 気軽に何でも相談できる人間関係づくり

* 茶話コーナーの設置、ミニレクの実施等
仕事の裁量度(自由度)を高めること、風通しのよい職場環境は最良のメンタルヘルス対策です。

(次回は「『文科省の働き方改革通知』の活用について」

労安法で学校を変える

—メンタルヘルス不調予防の対策—

産業カウンセラー 杉本 正男

はじめに

教育という仕事は、子どもたちの人格形成、成長発達に関わるもので、教職員の心身の健康、とりわけ心の健康確保が欠かせません。しかし、心を病んで休職する、復職しても短期で再発して休職に、さらに退職を余儀なくされる事例が少なくありません。メンタルヘルス不調予防の取組が重要な課題となっています。

1 教職員のメンタルヘルス不調の実態

<病気休職者の6割以上が精神疾患という深刻さ>

2006年以降、メンタルヘルス不調による休職者の割合が6割を超え、年々増加し2017年には6.5割に達しています。40代、50代にメンタル不調が多いことも判明しています。

新任教員の場合、2017年、全国で119人の退職がりましたが、メンタル不調を理由とするものが106人(約9割)でした。

2013年に文科省は「教職員のメンタルヘルス対策について」をまとめ、実態・要因・対策について提言しました。とてもよく出来た「提言」です。しかし、残念ながら改善の兆しが見えません。なぜ、メンタルヘルス不調者が増え続けているのでしょうか。

2 メンタルヘルス不調の要因

(1) 長時間労働が要因

長時間労働がうつ病発症リスクを高めるこ

とは医学的に明らかになっています。

「精神障害・自殺の認定基準」(H23年基発1226)によると時間外労働について次のような基準があります。

- ・1カ月間に概ね160時間を超える場合
- ・3週間に概ね120時間以上の場合
- ・2カ月間に1カ月当たり概ね120時間以上の場合
- ・3カ月間に1カ月当たり概ね100時間以上の場合

メンタルヘルス不調の認定基準に長時間労働の有無が考慮されています。

長時間労働は睡眠時間を減少させ、心身疲労を蓄積させることが医学的に明らかになっています。メンタルヘルス不調と時間外労働は密接に関連しているのです。

(2) 長時間労働の要因は仕事量の増大

長時間労働をもたらしている要因は主に二つあります。

一つは、報告書類等が増大し事務的作業が増え続けています。教育活動に不可欠と思われられない諸業務に忙殺されているのです。教育本来の仕事である、子ども理解・研究、教材研究等に費やす時間は時間外でカバーせざる得なくなっています。

二つ目の理由は、教育環境、教育条件の整備なしに教育課題が年々増え続けていることです。2020年に本格実施される新教育課程では、小学校で外国語教育、プログラミング教育等が新たに教育活動に加わります。

無免許教員が外国語を教えるのです。外国

教育相談室の窓

子どもを見る目

相談員 佐藤とも子

4月、初めての子どもたちとの出会いに大田堯さんの「子どもを見る目」を紹介したい。

大田さんは研究者のかたわら「日本子どもを守る会」の会長をしていた。「子どもは一人ひとり違いがある。子どもは周りとかかわりあい育つ。子どもは自ら動き出す」と言っています。相談室に来る相談者には、子どもさんが直面している「事実」を直視し、対応すれば問題行動の解決の糸口が見つかりますと話しています。

大田さんの子ども観は子どもの権利条約の内容であふれています。

「子どもの頃からの互いの接しよく、けんかをしたり、つついたり、つつかれたり等の中で人とつきあう手心や他人の身になって考えられる能力・通じ合える能力の土台を培い獲得していきます。一人ひとりが違うということに徹底的にこだわり、その違うものがつながりを徹底的に求め、その中で種の持続を果たさねばならないと思います。」

「子どもの内面からの訴えに私たち大人の中に埋もれている人間性・子ども性にたちかえて耳を傾けるこどもたちの人としての社会参加の機会を保障する環境を私たち大人の責任で用意することに大いに努めなくてはと思います。私たち自身が、子どもの目線から進んでこども達自身の訴えをよみとり、聞きとって、それらを大人自身の自己改造と世直しの糧としていく覚悟が必要ではないでしょうか。『子どもの権利条約』の精神もこのことを大人世代の責務として自覚することを強く求めています。」

子どもの権利条約のパンフレットを手にした時、温かい気持ちになり、子どもの意見表明・最善の利益を与える、今までにない表現を見ることができました。

大田さんは「子どもの権利・意見表明」の論議を見て条約がスムーズに受け入れられるかどうかを懸念していました。

今もって日本は子どもの権利に関する法律がない事から、子ども参加のシステムも具体化されていません。国連子どもの権利委員会からストレスの多い学校環境からの解放を促されている状況にあります。子どもの権利条約が花ひらくよう願っています。

子どもの意見・願い・ニーズを聞きとり、子どもの声を届ける、子どものSOSに擁護者をつける制度（アドボガシー制度）をつくることが求められています。子どもの権利条約に基づいており、日本でも導入の試みが始まっています。

雑誌「子どものしあわせ」に掲載されている、「子どもソーシャルワークとアドボカシー」を読んでいただければと思います。

■相談は さいたま教育文化研究所
「教育相談室」へ
■月・水・金 = 10時～16時
■相談は無料・プライバシー保護
■場所 埼玉県庁第1庁舎地階
■直通電話 048-825-2041
県庁から 048-824-2111(内線7791・7792)



杉本里美 著

筑摩書房刊 1620円+税 2019年

掃除で心は磨けるのか

評者 高岡 佐和 (よりよい教科書を川口に！川口ネット)

サブタイトルは「いま、学校で起きている奇妙なこと」である。奇妙なことが奇妙と感じられなくなることが恐ろしい。

「便教会」は、便器を素手で磨くことによって美しい日本人の心を育てる価値観を育むのが目的らしい。主宰者は、鍵山秀三郎であり、NPO法人「日本を美しくする会」(＝掃除に学ぶ会)を結成し、全国展開している。

彼は、憲法改正を目指す運動団体「日本会議」が主導する「美しい日本の憲法をつくる国民の会」の代表発起人である。この素手トイレ掃除は「無言」で行い、すでに県下の中学校で実施しているというから驚きだ。

「人が嫌がる場所に大切なものがある」＝「自己犠牲」の精神や「公共の精神」といった滅私奉公的な思想に導いていくようにみえる。便教会の教師は率先垂範して生徒を導く。

「親の教育」に国、自治体、地域、企業が介入→親がダメになったから、家庭の教育力が低下し、日本の伝統的な子育ては破壊されてしまった→「親が変われば子が変わる。子

が変われば日本が変わる」と説く。

自民党は、「家庭教育支援法案」の制定を狙っている。すでに「家庭教育支援条例」を制定し施行している熊本県では、「親の学び講座」の中で「子育てすごろく」をしたり、「早寝早起き朝ご飯」の大切さなどを話しあったりしているという。

「日本青年会議所」(日本JC)は、国史教育、道徳教育推進、政治参画教育、安全保障確立の4委員会を置いている。「親道」のプログラムの中に「アメリカが攻撃された!そのとき日本は?」「原子力発電所で事故発生!」というのものもある。防衛のための「自衛隊カード」も作成し、地域の祭りやPTAなどでバトルが行われている。

かつて「戦時家庭教育指導要領」があり、子どもを戦場に送ったことを誉とした「軍国の母」がいたことを忘れてはならない。「家庭教育支援法案」の条文は、この「戦時家庭教育指導要領」と酷似している。

この本を著した筆者の取材力と、「こんな教育は嫌だ!共に声をあげよう」という呼びかけに感銘した。

編集後記

▽「観て、知って、伝えてほしい、埼玉であったことを」日本初の保育園疎開という知られざる実話を映画化した「あの日のオルガン」▽誰もが自分のことで精一杯だった時代に、彼女らを突き動かしたものは▽映画を支える会共同代表の野口庸子さんは「周りの人の助けがあつて実現。子どもを育てるのは母親だけでない。映画を見た方が子育てを助ける「協力者」になってくれたらうれしい」と語っています(2/10東京新聞)。県内各地で上映される予定です。ぜひ観てください。▽埼玉AALLA「平和の旅」は、今の韓国をうかがい知ることができます。特に民主化に向けたデモの文化と若者の参加が印象的です。果たして日本は、そして教育に携わるわたしたちの役割は。▽新採用のみなさん。ゆっくり体を休め自分の時間をとって下さい。そしてその合間にこの特集を読み、秋からの活力にして下さい。

(山内)

2018年度の活動

さいたま教育文化研究所
TEL 048 (831) 4266

研究委員会

9の研究委員会で活動し、学習会の組織や研究成果を冊子にまとめて現場に還元しています。「教育のつどい埼玉集会」には実行委員会に参加し、レポート提出、運営委員として活動しています。

- *研究委員会**
- 国語教育
 - 理科教育
 - 外国語教育
 - 平和・人権と教育
 - 入試中等教育
 - 登校拒否・不登校
 - 障害児教育
 - 労働安全衛生
 - 教育課程・授業づくり

学習会・活動交流

～地域と連携して研究委員が活動～

- 「子どもたちと共に楽しい道徳の授業をつくる会」
「保幼小特別支援学習会」
「大里特別支援学習会」等

子どもたちにより良い教科書を～教科書問題学習交流会

2012年より毎月1回教科書や教科書採択問題について各地の活動を交流しています。19年度小学校教科書採択に向けて、県内各地の活動交流・情報交換・学習を行い、自治体への要望書づくり等行ってきました。

ネットワーキングつながる

- *不登校・引きこもりを考える埼玉連絡会
*彩の国子ども若者支援ネットワーク
*反貧困ネットワーク埼玉
*埼玉奨学金ネットワーク 他



「さいたまの教育と文化」発行

http://www.geocities.jp/s_kenkyujo/
で閲覧できます。

86号 特集
「新たに教職員になられたみなさんへ」



ここに人あり
「子どもの先には必ず大人がいる」子ども食堂
井島美由紀さん

87号 教育実践
「楽しい道徳の授業をつくる会」の発足と役割



ここに人あり
*命のメッセージ
野村路子さん

88号 生き生きと働き続けるために * 「労安の取り組みから見えてきたもの」 * 「衛生推進者」奮闘記
*職場の働き方改革をすすめるよう



ここに人あり
*地域でくらす外国人ととも
石井ナナエさん

教育実践
「ワクワク！ドキドキ！仲間と育ち合う学び」（小学校）
ひろば
「教師の主體的なまなびをこそ」

*生徒と共に取り組んだ「比企の城館伝説」の聞き取り調査
*「埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本」8年の軌跡

*文学の授業～教材をどう読むか～
*「特別な教科」家庭科生活を見つめる 言葉を鍛える物を作る

学習会講師派遣

- *学習会テーマ*
道徳教育・子どもの貧困・奨学金問題・特別支援教育・学校統廃合・学力問題・小中一貫教育・労働安全・社会人講座・中学校、高校の進路学習等

行政や大学、小中学校、高等学校の学年集会、職員研修会、生協、母親大会等各種団体の学習会、研修会等県内、県外を含めて求めに応じて講師を派遣しています。
2018年度は42回でした。



<相談件数・内容>
年間 108件 268回
不登校・引きこもり・いじめ・進路・発達障害等。
保護者の悩み相談も。
学習支援も状況により実施。

- *月・水・金10時～4時
*無料電話相談・面談等
*048-825-2041

『教員免許更新講習 何でも相談』
☆開設講座探し、申込のパソコン入力等何でも相談に応じます。お気軽にお電話・メールをどうぞ。

価格200円